ル 4
1833
2

門九4
1833
巻之

京都帝国大学附属図書館

紀伊國名所圖會卷之一之下

府城

寄合橋
名所燒陶器
馬ゞ瀬
青岸
住吉神社（松尾社 寛仁社）
卐ゞ辻
安養寺（雄天皇文）
吹上寺
式宮旧址
糸藏院（大師堂 僧侶）
雄滝水

總糸
類宮（樓門 講堂）
竹法稲荷社
燈籠堂
蛭児神社（紙園社 伊勢兩宮 稲荷社 榊 蛭子祠 住吉社 少彦名社 天満宮 出雲社 諏訪社 子守 勝手社 紀舟社）
法善寺（王舟社院 西方寺）
光明院（大師堂 観音堂）
亀ゞ坂
西岸寺（阿伽石 地蔵堂 連理松）
天狗石
日東道

本綿
傳法
本場
紋羽織
竹法橋
城山
湊川口
小野所（岸松院 保寿院 大智院）
長覚寺
務の坂
西要寺
仙人硯

吹上

吹上谷

吹上白菊

報恩寺

蓮心寺

瑞雲院
玉泉房

大圓坊
玉林房

恵光寺

護念寺

大恩寺

大泉寺

明王院

今福神明社

秋葉権現
冨士浅間

天満宮
祓殿

吹上濱

吹上丹浦

吹上神社

霊舎
獅林院殿御廟
三十番神祠
鐘楼堂

法雲院
狐塚

三光寺

観音堂
松林院

地蔵堂
伊勢両宮

観音寺

吹上小野

綱師岡

位牌堂
成就門
拝殿
黒書院

三十番神社

歴代御廟
祖師堂
林泉
祖師堂

妙法寺

玄恕上人
延寿院

山王社
妙法院

事代主神
吉祥

寿日神
疱瘡宇神
十王堂

倉稲魂神
猪熊八神

正寿院
春日神

大多ち

大師堂
持仏堂
弁財天

護摩堂
摩利支天
元三大師堂

最勝院
八幡宮
霊舎
獅子楼

金毘羅
袖摺松

梅ヶ原

大黒天
稲荷神

一切経蔵
稲荷祠

慈教院

大国玉神
月讀宮
猪田彦神
椎日尊
幡随意上人墓

万性寺

吹上峯

吹上濱汐干

多加寺

見堂
祖師堂

釈迦堂
大立院

位牌堂
本成院

本光寺

三十番神祠

宗考ち

堀留眺望

丈六寺

浄心寺

光明寺

天王寺

芭蕉翁俳石
春山翁俳石
三十番神祠
丈六岩
弁財天社
天王殿

高松寺

少人検校之碑石

井原神社

稲荷社
岡山堂

真光寺山

巽門
鐘楼堂

宁頂神社

東厚寺山

位牌堂

齊堂
観音堂

等合橋 内町渡へ第八

當津の眼目街道の間隙にて金城の小辺にあり橋上の行人
走るも動めるも橋下い出船入
れのたえまもなくて誠に南の一都會とつちまる

望君之城 合離

大藩尤貴顕多要害山城南海鎮巖在 東君廣壮
成魚塩元有利草木豈無栄仁政聞裏内士民諷詠情

寒月やうえつる城と鯖の生 紀藩 桃林

紬糸 こんこん中の産物なり中にも南府の紬糸は今皇国第一の美にして其性他邦よりはるかすぐれたり地実考覆大尾ゆえん

木綿 国第一のゆえに絹もよしとす杜のすくうにはあさも雪景
のごとし麻綿とつくるこれ
つもるちくん今はそのさとをうらうらとくいて麻とおちくつう
ちくわ麻綿 近年地の九情よりはるかすぐれ
紋羽織木綿 紋羽ちりしと南府
ちくこんをとくくもと撥糸しくつ糸とよとくもとこれ出
十倍にそのかう利ゆるしのいあげくっぜんをこに

寄合橋

謝泉南广生所
贈棉布因憶南
紀祇伯玉

南方舊聞木綿
花奇卉殊勝桑
與麻三尖楓葉
未染霜一寸葵
心欲傾陽瑤水
蟠桃子正結金
堤弱柳花如雪
蜨殼剖時逆珠
淚奪群鬬來飄
素毳人間一葉
碧梧飛泉女夜
織月前機初傳
海上珊瑚市應

換山中薛荔衣
美人所贈我何
酬南望側身歌
四愁君不都布
草衣公孫作馬
援到日不樂留
可憐老去心空
壯却為平生憶
少遊

新井白石

紋羽織屋

定賃うて
ゆうめ
地も
ふし
あこへ
紀州
ゆんぞの
うけ
はて
よれ
法定
後綱

紋羽織問

文流織ハ宝暦七の年より
和泉山新色を丁目雑賀屋
ゆる家ゆり孫六織呈盛と業と
ちくさ薫て五十余年和神
新織の呈盛地と新織
武夜の姿ゑ浮人と
なく新織の者ひと
ゑへ者て見て者
ハ覚ゆ新麗ふれ
う者ゑ者
四字と書し紙
上ふ吹丸て
新織の名と
織出ゑ
明和巳のとし
ゆう文流と名
を改ることなり
ちゑまゑハ南機
う者ゑ

ちゑふゑの
異新後ねのあれそ
紀の国屋ゑふゑを
うれしき

雑賀
蘭岡

紋羽織問

名所焼陶窯（山口荘雄の山の中に熟して作りたる窯あり中に樹くさとなる所）

類宮（学習館のこと字林祭主信敬の撰）

（学合格のたしづめ）樓門（東西五間南北三間中門柵門）講堂（八間に五間）門額

尚國上古以来類宮の設なくんばあるべからざるとつくづくも中
業以後兵燹志ならずくに〳〵舊典のうづもれなる迄初
南藩公の尚国よりつゝもやもすれば文帖武熙のまつりごと
を施し給ひ類宮成るに國家の字第をしてこゝろぐく
邪〳〵乎うる憶よすはきあんとの思し給ひしの大創
業の世のゆるぎなくに相よかり給ひ皇あるべき事ぐ
右廟御在藩の日たゞめく今の地に仮ふ学舎をいと
なくたまはくいつも尚つまぐ人生〳〵べ
當君御襲封のたゞめ
先君の厚志と継ぎ給ひ竟に去る七年有余に命じ給ひ

これ成造立すべきの傭負日々に輪番をもく出勤し藩
中子第相ゝび庶人のもゝ〳〵にいろまて教旨をこゝろ
年毎に授業の敏最よきゝ出精のもゝ〳〵に特よ別扱あつく
これ成褒賞をこゝろのまゝ例案秋の二時にて祭奠を
國君御在國にいづれ臨くこゝ成ることなくひなくに其礼いも
尚重ゝかゝ文学日々に啓〳〵俊傑の士國々こゝち
民志悍の情よ沸ゝ今に〳〵ある南方文明の化のおこなひ
ゝこゝと実ゝのんゝふ我邦学校と立〳〵ゝこ　天智天皇
の御よりゝ　持統の御よりゝ大学寮あり　孝徳の御よりゝ
桓武の御よりゝんゝ生徒稍に衆多なるべゝ為よ勧学田成
相〳〵ゝ其に供〳〵なまへ〳〵国書よんゝ　摩和学
の両院い源氏の学鐘に〳〵〳〵左京紀ぶにそしゝ学校
い橘氏の学館に〳〵〳〵橘大后嘉智の創ゝ所ゝ初学院

を藤原氏の学校にくらべて論ずるに足れり清
麿は弘文院にまつけ小野篁は学校をいとなみ
ふ文学の設けて至れを教とたるのそなへなりさるに書と
いる書のいとも支那より流れざるものまれ迦葉士師孟子の
ごとき彼にふれて系邦にたくあるべしれ享保乃
比倶徳先生の吳利学校ゆく ふるい板行ものの人よへも
持ちくる既ふ翻刻をしてさくいたふ吾邦古文の德のつた不

傳法 紺屋町にあり天三年中根来と称却のこたらうらくさん
むくさたの禅師大国秀吉公にわづらく大伝法院のおくしゑとも
こひうけうそ士たそこの禅師大国をもちうとおがめしく四人たく四
さむ禅師の侍ふ根来ふよりゆたくとこぶちて武ところ鬼いこし
あるひは大方川にもつこのかせしてと大国ふ川にたこそふひたこいうとと考るる
禅師そらく伝授をうしとさいたこんすてゆ京たこの伝法院の根来とをてる
にうかくまづけ
けるとく

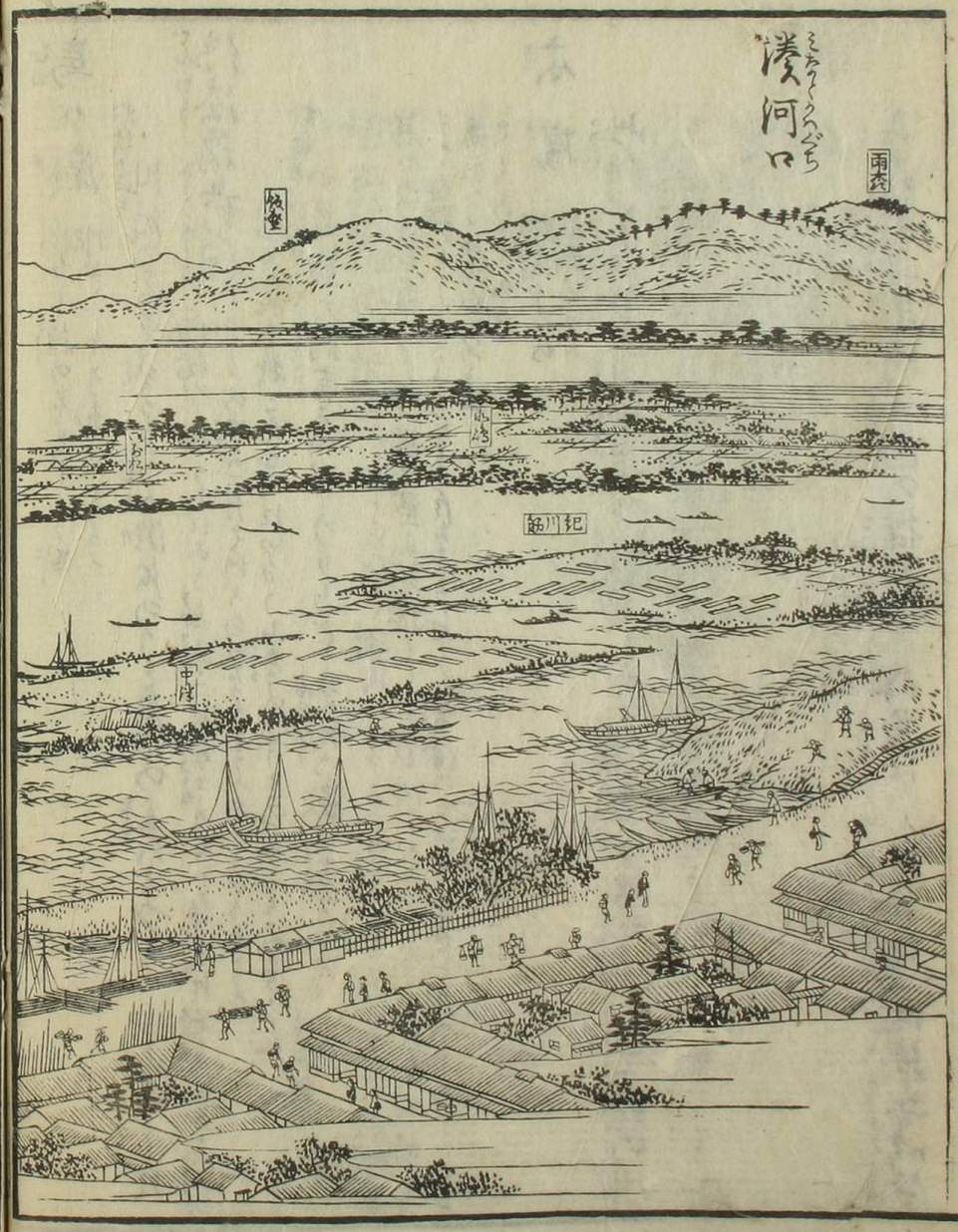
伝法橋 桐柾葱宏集十二年あり西い
川口にくおさゆるる法伝法の略をりへたうちて

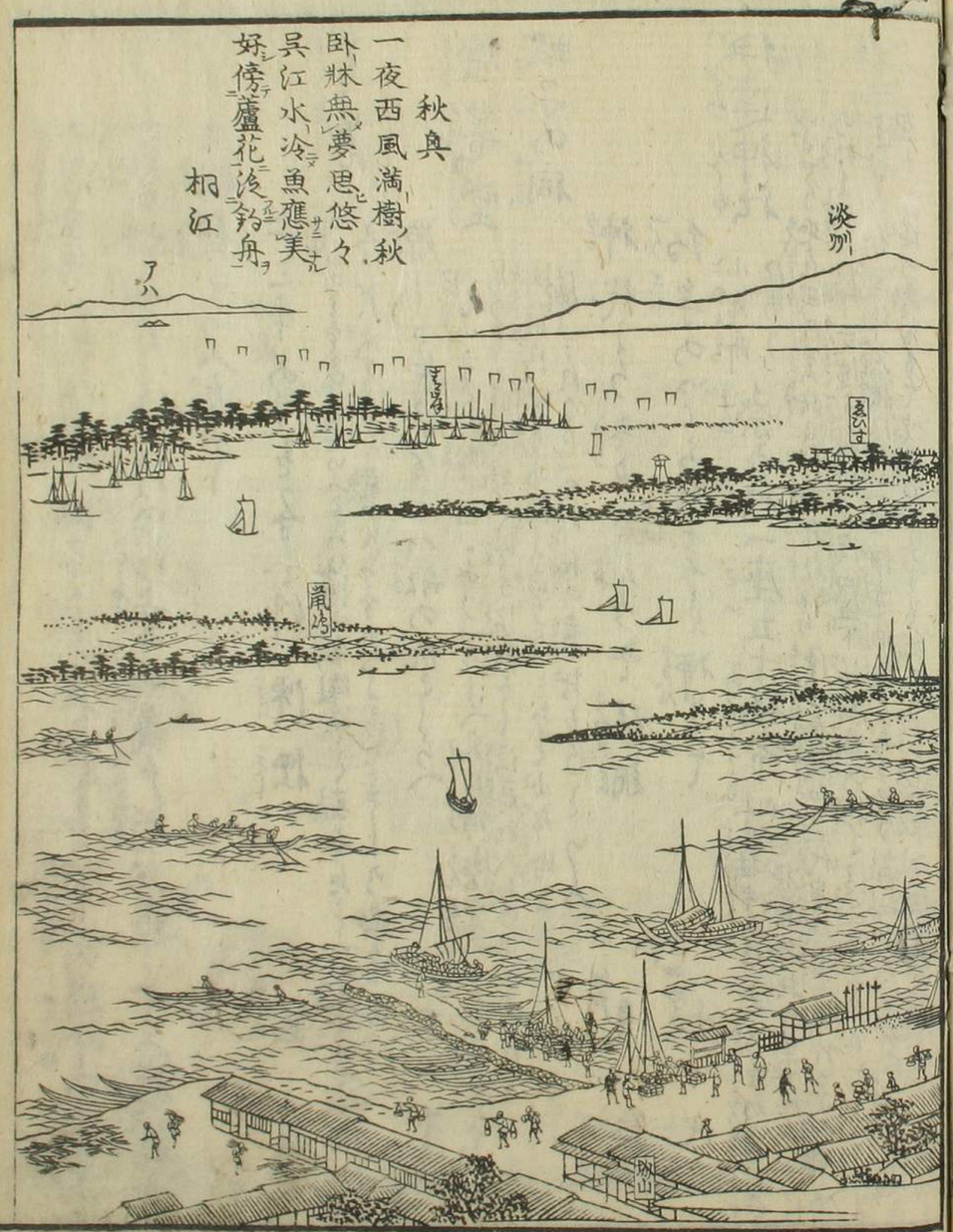
馬ゞ瀬 馬ゞ橋のそ所ちうう西
馬ゞぎしの角にあり毎歳二月初午の日の祭礼法花六年月次
風流のうのて多ろうる陳列のうちにあり毎歳二月初午の日の祭礼法花六年月次

伝法稲荷社 伝法のうの中ふ二月まれうるいたうまつでしくうとこころ
小豆飯大内言さ知れうるもちぐ受伝の家どちりあらん 伝花綱や 柳
武ゞ日ちんいれと老狐
目ふきつる百歳ふ川の北斗星ふ千年狐
古狐毬毬とたしてうちをうたをたをうたしわ写俗のつひなうをと交へしつこんそ
彩れてうゆるひたうふ
こくあるんや

本場 伝法まくの寺例とうふ
此所の古ゆく山中より伝出しうる杉丸太伝綾として紀の川
と栄ちうくうたに集て胡ちうたに兩度をふくのちうと
見うふく市伝うる

城山 久保町のうる
南にあたんちうふ
ちうい大文年間中四の探須大内義隆家臣陶尾張守晴賢


淺河口
雨袋
紀川筋
中陸


秋真
一夜西風滿樹秋
臥牀無夢思悠々
呉江水冷魚應美
好傍蘆花浪釣舟
相江
淡州
アハ
雨袋

入道全善の出だし城跡なりとて吹上の精舎の辺までの
一堆の岡ふんしゝく湊のうしろ上より清萬戸浙江あ〜せ山魏然と
る壮観ゝ〜をし〜

二三年あゝそうすゝ川 煙 若山画 雛

まち岸

川口のゝのさをつくり海道の要津にゝ点ゝ点ゝいくゝゝと
ゝゝゝ水ゝゝ驚かすあをきゝゝの名ものゝ

涼しさやうちなびく船の帆こうらく 正秀

燈籠堂

川口のさゝ松林の間よりあらゝゝゝと遠く見ゆる遠ゝ入江の見あくたす

蛭子の祠

外海汚茶屋の情なるこの神社の書はちうとゝ小祠所なゝ

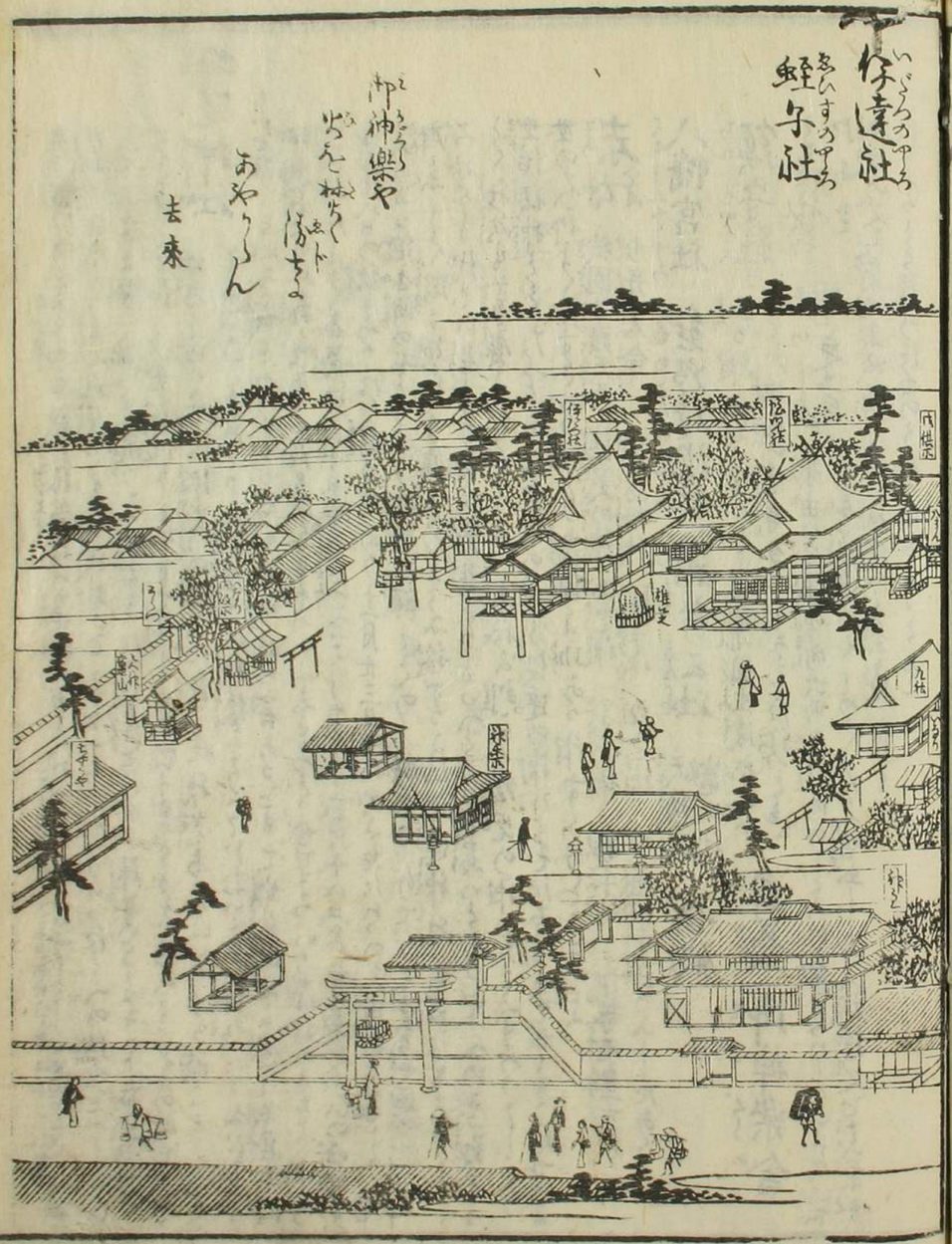
神代よりをかもたるを樹親 江戸 貞佐

名ある手のいゝふたゝあゝく 柳まて 加賀 千代

伊達神社

小字所 たあり

祭る神一座五十猛命 五十猛命のゝくゝ名なる彩山東の荘伊達郡式神名帳に伊達神社の末下たゝゝゝ
の彩る正五位下文徳実の彩るゝ四位下和帝の彩るゝ二品とさゝゝ
ゝゝゝ寺国神名帳に中古まゝゝ吹上の彩る
都しゝ名地の名なすて吹上のゝゝゝゝ伊達神社



[illegible]千間の株間にあり社中へ[illegible]中古[illegible]上[illegible]遷[illegible]西
[illegible]社号をイヅタケルとつゝいたゝへの[illegible]
[illegible]古書にハ社号をイダテ社号とイダテ神号とゝタケルト称へ[illegible]
[illegible]九十[illegible]水門の海上に[illegible]神[illegible]
[illegible]の神像[illegible]
[illegible]

蛭児神社

[illegible]

伊達[illegible]
生土神[illegible]毎歳四月十日の戒[illegible]
九月十八日の秋[illegible]
[illegible]
[illegible]

赤社

祇園牛頭天王　住吉大明神　生吉大明神　勝手神　伊勢両皇大神
必彦名命　誠訪明神　紀伊守神　松尾神　天満宮

八幡宮社　熊野権現社　稲荷三社　合祀

[illegible]

須守社

[illegible]

雄之立

[illegible]

舞堂神神楽舎

[illegible]

雄之碑銘

海部郡宇治湊昔建題國社合祭蛭児神余生此郷嘗聞
此地蓋五瀬命雄詰而薨之處因名男之立之志[illegible]社辺[illegible]
阡陌也名曰雄之町[illegible]紫古事記神武帝南方廻幸到
紀國男之水門而詔曰賊奴之手乎死為男逮而崩故
號其水門謂男水門也陵即在紀國之竈山也按之日本
紀大同小異也今以古事記為據遂告祠官邑長別立一
區封土蕃艸以石甸焉。余故勒行石以壽千無疆。

寛文九己酉歳六月廿二日　梅溪李全直建之并書

小野町

[illegible]

中ゞ辻

[illegible]

玉泉山海善寺

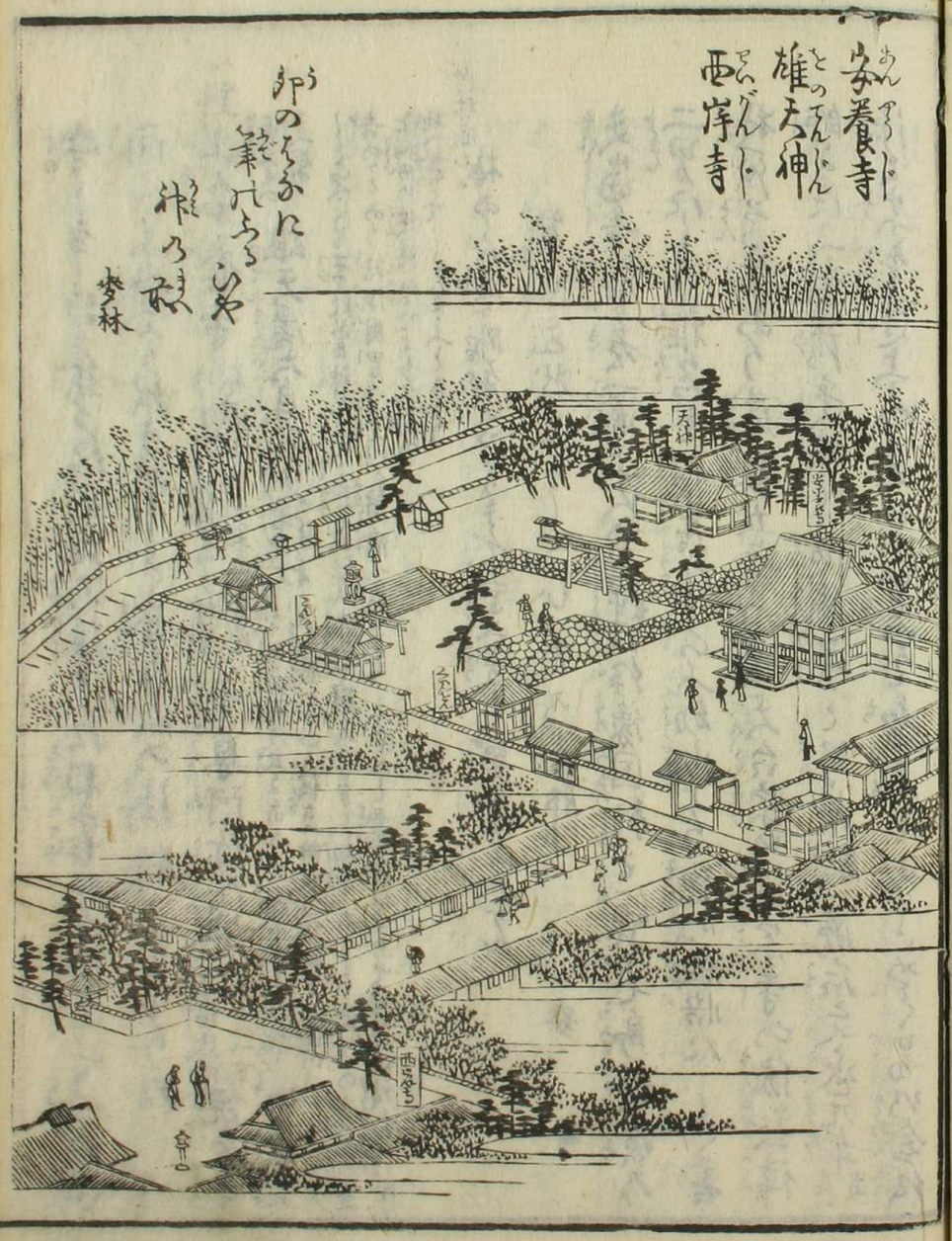
[illegible]

李ゟ阿弥陀佛

[illegible]

服士権現社

[illegible]



[illegible]王ね社の神と称へたてまつる神功皇后三韓より帰陣まします時
[illegible]男の水門へ[illegible]
[illegible]崇まつりて神[illegible]
[illegible]皇后食國の[illegible]
[illegible]大阪に冊生の[illegible]
て金剛寺と[illegible]
[illegible]
[illegible]

寺とゝのへけるなるに彼地大浪ゝに粉骨なるによりて此堂
開こゝ小堂を成うゆゝしく西山流の除糞ゝたちうめ
小野山安養寺　小人町南にあり時宗　本尊阿弥陀佛　安阿弥作　観音菩
本尊の　雄天厦大自在天神社　天暦年中橘直幹卿西國へ左遷の
薩像　高一八一寸
ゝ　ゝ　ゝ　

芝長年中栗山果報院此地ゑ移し〻今の通坊ゑ移る

孤圓山浄秀院西岸寺　日西のひ〻ゐ　浄ちふ法　西流　本尊阿弥陀仏立像にして長二尺四寸余安阿弥作　脇士観音勢至菩薩　左子堂　延徳左子を安置ス　鎮守祠

八幡大菩薩　勧請のまゝ

当寺は弘治年中岩川右衛門尉の建立なり　往昔は寺領五十石ありしと云ふ　人皇百八世後陽成院の御宸筆の画像渡いまふ位牌

林嶺山憶西院長覚寺　本尊阿弥陀佛　紀立秀日作　七三尺四寸余

寺傳に曰夫当寺は超覚法印清光の開基にして始い天台の道場なり清光の俗姓は北畠権中納言具教〻の先祖人皇六十二代村上天皇第七の王子二品中務卿具平親王十四代従一位准后親房なり親房嘗て暦應二年当国に来り浦なる小のゝ山に草庵を結び林嶺山憶西院と号し世の塵埃とは隔てゝ寂寞たるを以て

長覚寺

本堂

墓所

卜枝

父師重ゞ十七回の遠忌ちかづくに善提のために石塔婆をたて
ゝ寺内にありまた矢大明神を再興しくこの紙鎮守とたゝうゝて延
文四年四月十八日終ゝ六十七歳にして往生ゆゑ其のち六代具
教の代ゝゝゝゝく伝勢国に織田信長と敵対
合戦ゝ打ゝびしゞが永禄九年十月和睦のゝそのゝ信長ゞ二男信
雄をもつて具教ゝ婿ゝゝゝ尋ゝ文亀元年九月具教入道して
法諱を超覚ゝ号ゝ後ゝ有ゝゝむ志ゝに超覚五男あゝとのゝく
信雄とゝゝゝ弁ゝゝろあゝゝゝゝ世ゝとゝ牧ゝ家
にあゝく信長大ゝ激怒ゝ天正四年十一月廿五日軍を紀ゝく
不ゝゝゝ裳ゝそのゝゝゝゝゝゝ超ゝ力屈ゝて ゝゝを
ゝふゝゝあゝゝゝ容ゝゝ尚国無野ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ五
年正月親房ゝ隠操をゝゝゝ其あゝゝゝゝゝゝゝ遂ゝ
和奇浦ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

其中にとびつてんとをしらんに孫市仏たつる常に超覚法師
にたゝしく交をしらべけるを急をはげゝ助力をたに超覚法師
より信長は深き恨あまびたる大なるこゝろに許諾せしかども
二人をぜゝくたるをうて其由市門主より報ぜんとをもふん
かゝるをうあらてゝ是ぬかを小顕如上人市長の細
をもぜゝをもひやゝようゝ家をれゝむにあれども
加様なくも当世年市若員あゝをたまひ無主をゝさ
ひゝ他力本願のこゝろ家世にあらゝく滅亡をんとうをく
も恨をんゝたいあ代門徒のゝあに遺ゝ変をたまへ市真
影をんをおゝち市記会をうふ怨敵の手に失ん市とをもをても
ゝをあるいゝ小ぜゝのすゝを仏法のゝあるゝ仏止るべと
のゝあるを門徒おもゝふ涙をたゝゝて言葉にをくて唯称名
をぞをゝたるかゝくあゝぜをゝれば門徒お上人をゝを

ゆゝをゝ弥勒寺山にうたゝをる教如上人にたゝに市思案
をめゝをゝれいふゝをゝて長考に設ゝ和義をゝうそのゝんをひ
討取んと追来るをゝに寄手の者ども有無を論ぜわを
崎ちる磐の巣ゝを巌にをゝたまひ三日三夜ゝ籠に市食
米をも絶たまへ此おゝ不思議なるに法上の端要なる
かゝをゝをゝたに乗りして長刀と火車のゝくにをゝ
ゝ敵をゝをゝを戦ひゝゝ寄手いれもゝあ女人のをゝをたを
強く迫ゝるゝも遠差にゝをゝをゝをゝをゝをゝ六月
二日京都本能寺にをゝをゝ信長父子ゝ名ゝを生害を
ゝゝに丹羽ゝ軍中傷を接紀し治雪をすてゝをゝあ家をゝ
にと上京をゝをゝも危急のゝをゝるに安ゝに蜀して
市門主仏をゝ門徒のゝゝ安堵のゝをゝひとをゝに

けりとるにくもりの安人い夫大仏の化たしく其こたうしか
山下風浪して故をるあ日ちなぐちとさぬくの霊験あるさ
まで其後西市門主に羽五九年八月まで修業ようとせもひ
しぐそんよりして當らく移りたさひ又の年の六月まで八セ
なま人此内紹覚に教如上人の御勧化を聴聞ちまり頃ふ
宗の序絵して市ア子とちう法諱をあくめく浄えとの人
こまちう永く苦よの仏場ふちりうちう上総国市場の浦なる
ちりうちう近ち再建あ門く美麗なう日毎ま晨鯨の勤く
ち老若の緇素紬仏法しねれ恩の称名月くたあくちもば
去此不遠の浄ちもつをし
什物赤栴檀阿弥陀如来尊像 三尺八寸 名作大仏の作なり
関白秀吉朝鮮伐の打ちこのうちまるるのこのおわ
に移りく住居せしにのの移ぶ

時奥州二位藤原泰衡滅亡安堵の後ここに滅ぶ 鎮守府大将軍源頼家卿所持長刀 志津三郎兼氏作。此頼家公の薨ぜ給ひし所なり 陸奥国安部野にあり

吹上寺

住昔西海枝や町とて
ちよ伊勢ちつるりのあり
家中に枝あり
枝るれ
出ちふ西法の碑
方伊勢ちつ
いやう南紗
が扇半妃ざ

北山

本堂

墓所

夏日郵事
讀罷芬陀典深林人事
静目手門未関禅牀坐
松影

天王山吹上寺　濱の所にあり　禅宗　本尊観世音　像正行基の作
[illegible]家京妙心寺に屬す

當山は古刹にして開基と聖徳太子なり紀年詳なら[illegible]
ちなめ吹上の茅車坂の辺なる建立なりしかるに和の比示國
主淺野但馬守長晟の夫人正清院殿泰誉果悦善方大姉茶
毘の地也　神君の御姫君にて[illegible]蒲生飛彈守[illegible]嫁し五人所生
[illegible]の比此地にうつり
[illegible]隣の高岳に[illegible]此地をもとめ[illegible]
松樹聳[illegible]林を[illegible]岩暑のころは涼風[illegible]
[illegible]ふんを[illegible]頓[illegible]義皇上[illegible]む四名この地と千
本まつ[illegible]

松龍山光明院普門寺　生田谷町にあり[illegible]　本尊観世音
[illegible]大師堂　[illegible]
[illegible]四国八十八ヶ所と　阿彌陀堂　本尊[illegible]　地藏堂
[illegible]
[illegible]　鎮守社　稲荷神　弁財天女　阿物石　寺内にあり　[illegible]　[illegible]天　本尊の西にあり

光明院
連理松

庭松颯颯也亭亭送
夜聲箏好雨星雙鶴
白一牛青清風今被
幾人聽

十[illegible]
[illegible]
雛あそ[illegible]
[illegible]林

連理雲　國祖君の御殿庭前の[illegible]

鵜寫　上所綱五郎林木所桂雲所此四所ハ[illegible]

累世の家あり

卯のたちの侍ものふ紹ゞたか　槐亭

[illegible]　牡丹の所　鬼貫

恵美須社舊地　牛所　亀ゞ坂　天狗石　名所とし[illegible]

孤雲山東印院西乗寺　本尊阿弥陀仏　[illegible]

當山の古刹にして開基詳なる慶長中九条上人を中興開祖とし

南岳山宗徹院密林寺　本尊大日如来　[illegible]不動明王

七四尺多聞天　大師の作ちなり　大師堂

[illegible]

[illegible]

雄の清水　[illegible]

日恵芝　堂前の西にあり　[illegible]

仏人の硯　西のすみに　國君より藩士[illegible]

仏人の名ゝるにたりて奇なるあり形状のごとくにして其中に文字の

ごとく成ものゝ[illegible]て土人仏人の硯とゝ世る所謂石宮殿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

吹上

日 駿河府城の西南をつゝまきて白砂高く吹上く
此吹上の濱とゝ西南の風烈しくて遠近の
一夜のうちに吹あつめく山とす又たゞしゐ吹殿て
ゆゝの平地となりこゝ常に風ふかをふきあるようて吹
上のまゝにつゝる此地いむしゝ月の名ところ〳〵丈花
古詠〳〵あつさふを年年四つ〳〵名所も廢して蒼海
こゝとゝび桑田まゝるゝ〳〵ひ今ん其俤さへも衛士の夢と連く
出る月ら家ら出く家ゝ入の風〳〵からうめ

清少納言枕艸帝に 濱い 吹上の濱

後拾遺 都にく吹上の濱ゝ人とゝまへるだろふへ波ん 懷圓法師

新古 浦風ゝ吹上の濱のまゝちゝ波立てし夜半に月をすむ 祐子内親王家紀伊

日 月をすむ吹上の千ゝ松ゝ〳〵ちゝ 摂政大政大臣

日 ちゝる波の音ゝ〳〵ちゝ吹ゝ濱の秋の初ゝ 祝部成仲

新勅撰 吹上の濱に桜ゝ〳〵ゝ春風の吹上の濱に〳〵ゝ 家隆

日 波ゝ〳〵ゝ吹上の濱ゝ〳〵ゝ波ゝ〳〵ゝ 前参議教長

後撰 都にく吹上のゝ〳〵ん紀の國や吹上の千ゝ松の服 藤原基綱

日 沖津風吹上の濱の白砂ゝ〳〵ゝ秋の夜の服 権中納言實雄

日 ゝ〳〵ん吹上の濱ゝ波風ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ 定家

新後拾遺 久ゝの雲井風ゝ〳〵ゝ沖津風吹上の濱ゝ月ゝ〳〵ゝ 法印慈信

新千 立波のゝ〳〵ゝ浦風の吹上ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ 山本入道前大政大臣公守公

日 沖津ゝ吹上の千ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ 白河院御製

日 吹上のゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ 三条入道前大政大臣

日 沖津ゝ吹上の濱の〳〵ゝ〳〵ゝ 光明峯寺入道前摂政左大臣

日 朝夕ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ 四融院御製

新續 ゝ〳〵ゝ秋ゝ〳〵ゝ中津ゝ吹上の濱の風ゝ〳〵ゝ 嘉陽門院越前

堀百 沖津ゝ吹上の濱の月ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ 永縁

南五　[illegible]風の吹上の浜より見る白雪　源資氏

文本　吹上の浜風もむせぶ[illegible]千鳥の[illegible]　太藏丁有家

同　きのふやさ吹上の浜より出く雪の塩色うしたちぬめん　慈鎮和尚

同　う遠く飛ばしらの[illegible]の吹上の浜　前大納言為氏

同　月新しき[illegible]吹上の[illegible]　後久条内大臣

同　秀風の寄せてうちきの図や吹上の浜に秋やうらうん　鎌倉右大臣

同　他のうるやあるの[illegible]やの[illegible]千鳥月よ[illegible]　後鳥羽院宮内

内裏名　裏の後のなしも[illegible]吹上の浜より[illegible]月み　俊成女

沖集　桃[illegible]沖津白吹上の[illegible]　後鳥羽院御製

紫禁　[illegible]の吹上の[illegible]　順徳院御製

散文　きの[illegible]の吹上の浜より白いらくまの[illegible]とよ[illegible]　後頼朝臣

山家　[illegible]吹上の[illegible]の[illegible]　西行法師

月借　きの[illegible]吹上の浜より[illegible]　後京極摂政

飛鳥井　[illegible]寒[illegible]沖津白吹上の[illegible]の雪の[illegible]波　雅經

隣女　白[illegible]の[illegible]吹上の浜の[illegible]秋の夜の[illegible]　雅有

家集　白[illegible]の雪吹上の[illegible]風[illegible]とつ[illegible]過[illegible]て　鳥家

家集　吹上の[illegible]風[illegible]村[illegible]　師兼

家集　吹上や[illegible]なるまつ[illegible]浦風の色　權大納言為尹

千首　秀寒[illegible]吹上の浜風[illegible]　宋雅

白題　吹上の[illegible]　頓阿法師

家集　[illegible]吹上の浜の[illegible]　宮内少輔藤原光綱

西槐　秀風の吹上の浜の夜[illegible]月[illegible]　榮雅

名寄　[illegible]花[illegible]浦風の[illegible]松の[illegible]　兵衛内侍

建保　[illegible]花[illegible]秀風の吹上の浜より[illegible]　定衡

同　沖津風[illegible]吹上の浜の[illegible]　行能

同　[illegible]吹上の浜の[illegible]都の秀[illegible]月　康光

建保

すゑたちく立たく波の霞にもまぎれぬ月のあけの大屋　後柏原院御製

雪玉　春風ふかぬ日あるまじきよりたくふさあけの月陰　貴　隆

月　はのろよりたらぬ波上の山岳たくうるる紀伊の大海の月　正　徹

竹根　うたの間よりくしのさろ浦もの波上にたるあるの夕雲　耕　雲

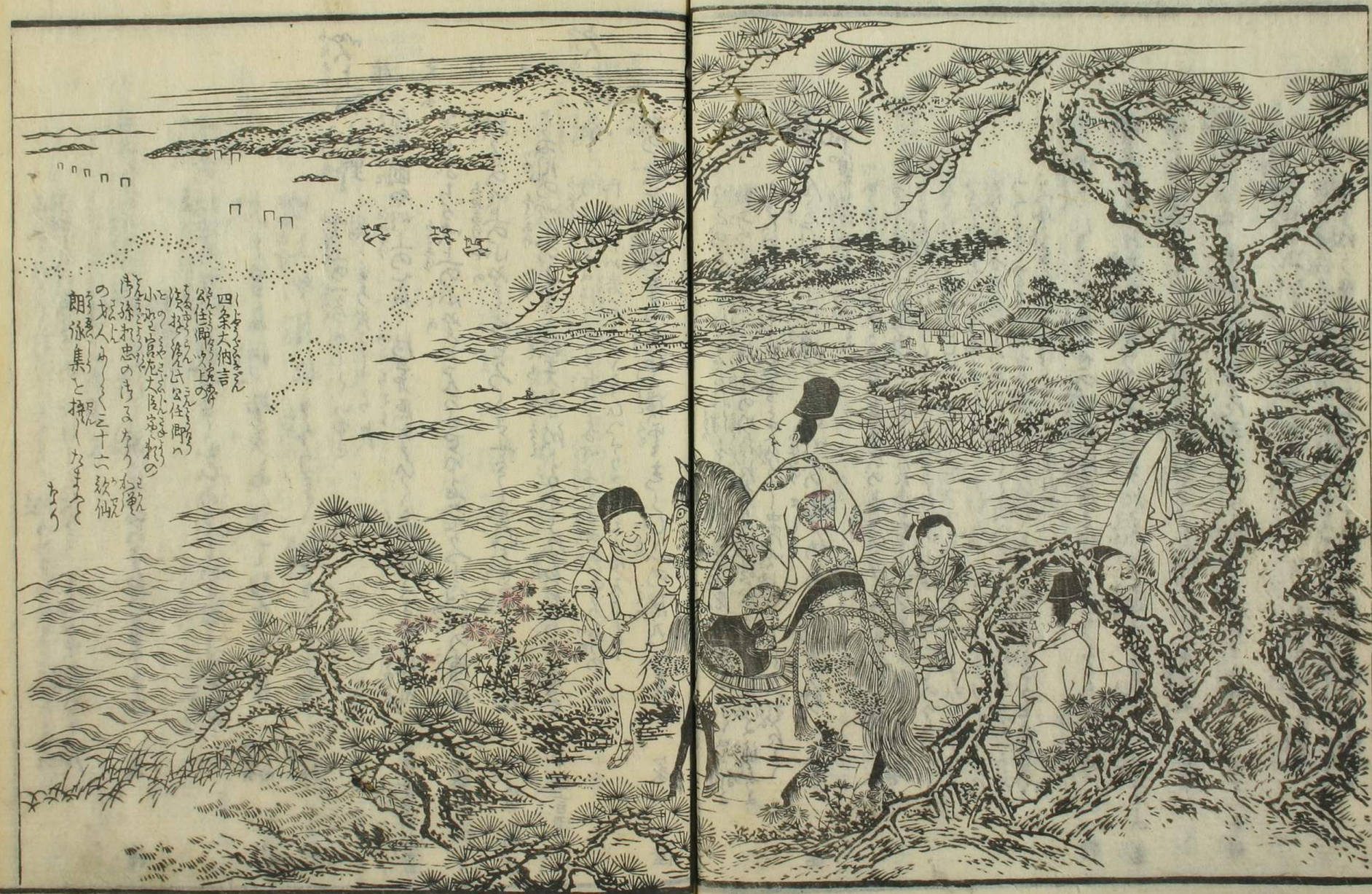
六帖　きのうるの波上の浦もあるめとちるとたるとたるん　無　名

盧主　紀野紀伊の国の波上の浦る月て面白し

この浦に人のあるよくうらてあるそ波上の月

霜　うらしくあ月のそ月のあらしの嵐のうい月

月　うらくくく


四条大納言
公任卿の上の
後は氏公任卿の
小さつぼね大臣宮れの
序孫れ忠のもるかう
の女人め〳〵三十二紋仙
朗詠集と押しかまへて

[illegible]

きのふの吹上の浜のそなへにく紫[illegible]ちとさきそろふん　大将

中将ゐそや

吹上の浜辺の松ちる名残をくもひあるくまでもそ[illegible]

知るらむ何ゆゑあけてかろ月　加賀守　枝

吹上や月に[illegible]ちく浪うしら　若小松　居

吹上の小野

続後紀　紀の國や吹上のをの[illegible]浦風　後九条前内大臣

支木　[illegible]ふちる吹上の小やとをたてつゝ秋の浦浪　中務のみこ

月　秋ゆゑの吹上の小やく[illegible]ちとろく[illegible]ん　光俊朝臣

月　[illegible]風の吹上の小やく[illegible]原波[illegible]ちとろく　中納言國信公

吹上の峯

玉葉　吹上の[illegible]作[illegible]ちる丘[illegible]

[illegible]府城い岩石[illegible]

[illegible]の夜と吹上の峯の木[illegible]ちむ[illegible]の端ろつ[illegible]　家隆

吹上追加

続古　ひとりたゝひとりなるこの谷の峯の吹上[illegible]ちる[illegible]　中務卿親王

支木　谷風の吹上[illegible]ちる[illegible]の[illegible]ちもえへめ[illegible]ほう邨　よみ[illegible]

吹上る裾野の風やをみふへし　貞室

吹上てつ[illegible]ふる[illegible]ま　素堂

吹井の浦

[illegible]吹上の名に[illegible]泉の国に[illegible]の[illegible]階　紀[illegible]

[illegible]

[illegible]

家集　天津乙吹井の浦よりあるふ[illegible]　藤原清正

[illegible]

沖津風[illegible]の浦[illegible]　右京

[illegible]

月　[illegible]の浦[illegible]士の羽衣[illegible]の浦[illegible]　盧　土

服のうこのとりとやまかぜのたちうにあへてこそ

家集

月よ流るうきよ又あうきよをあのあの浦のあるふるや　盧主

支木

芦田鶴もとゝへのうこをあなたうこ世ちのあの浦よまうこ　寂蓮

御集

芦辺うの汐ちうにたちぬ風ちのあの浦よ田鶴をうう　順徳院御製

わうこゝ川吹みろ月よみちう水　其角

庁ようもさゝ吹みの山の響　乃古　岩翁

細ちうよ吹みのうをゝうれ　横几

細師の巴

支木

ちゝ波を吹上の浜ゝうるぶあゝの巴よふ月ちう　よみ人しらず

吹上八景

雑賀晴嵐　　従二位為久卿

嵐ふるさの浦よあの細のやもうくゝたゝ波つ

妹嶋夕照

春さうの塩瀬のうちのつもうあほふうあ波もへうて

吹上秋月

宮ち波もれすやうすむ月の秋風きうた吹上ろ大屋

飽浦飯帆

すもうさに吹るあゝ紀帆のゝくうと春ちひくあうの浦を

名所山晩鐘

名所山梅鹿ろそ波の夕波もうあうそうるうりあひろう

紀湊落雁

仲津うの変と帆よあけく紀の海のうるくうもうるく吹

形見浦夜雨

わるうやうさうの海士のうぬうこ浦淋ゝうもあとうきく夜ち

藤白暮雪

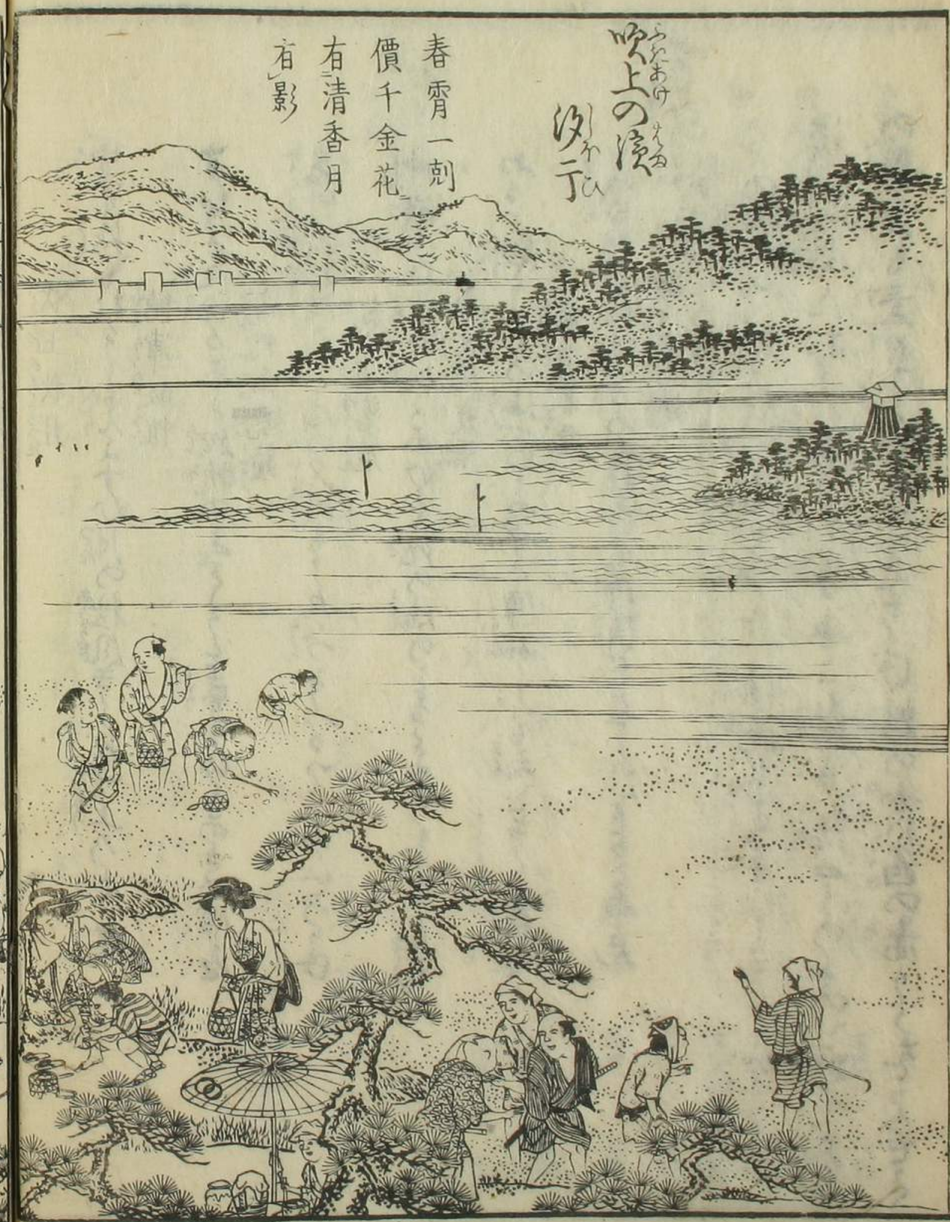
夕白や雪の降るのうれひそ沖ちとうたまうるん

吹上の汐干　世俗荒濱

その上巳の汐干ふ任吉ようゝ法師出ちも手たうゝくかううて

淡路へ行んれりしあうゝ手毎ゝ紙ゆうのうのとれて大名

の奥ゝうも素ゝくくゝすそとうゝ紙の女ハ西の赤うゝをうんせく


吹上の浜
没ル
春宵一刻
價千金花
有清香月
有影

肥後北里
一平
毛氈と
その汐帆や
没ル
鬼貫
上り帆の
去來

汐干のころ蛤殼行貝を負ひなどして拾ひとり大浦ゝるまで人
ちらぬ所もなく茶屋店おの〳〵賑ひ絶まく春
色にかけりてゆかしきことゝ也

汐干のころ絵ゆく名ところ　　嵐雪

思ひ〳〵海ゝ色ひ　　伊勢　樗良

吹上の白菊　吹上のそばにありしとか

蒼海変〳〵桑田ゝる古人既よ名所佳區の世く沿革ちる
ゝ所嘆ゝるゝ久し左柄の橋朽壺の碑うもれ〳〵欲のゝるべた
なれも名ゝ十歳ゝ朽ぬ埋まだして今た語りたゝるものゝ絶よ
ゝ詩ふ賦ゝるゝ〳〵ゝ常にもあるものゝ賞せだ
〳〵遠て無ゝの所愛ゝいるゝそやゝとゝ人ゝ〳〵いゝで
當世のゆ名あゝ〳〵いゝ芸人骨と朽ゝゝと竹帛にちゝて
世〳〵に共名所作ゝるゝ〳〵ゝ今たして其跡のあゝと

なたゝを論ゞんやこの吹上の白菊ゝもゝる其ゝゝ其
花さゝちゝだゝゝゝも世ゝの勅撰ゝもゝゝゝ其名いと
ゝけまゞ地の名ゝゝゝゝて殊ゝ挙ゝるゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
窮やゞ菊ゝ所ゝ音ゝゝゝて私名左支ゝ新撰字鏡にる
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
呼ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
本鞠たゝる鞠い鞠ゝ走ゞゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
つゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
謂ゝる鞠ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
手をのゝるゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
仁徳帝の朝ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

帝の好る菊の花の宴あり世々ことに代々花をする
もの多く名花もまた倍々に生ずるに伝説永ろ正徳
享保以降くこれを培植こと漸々に今日空前なること上
古唯に菊なるもの花尺寸大菊花色こし
我邦菊の一変せるもの千態萬色あること
もの多く近世数の小菊あるひは中菊また紀州
菊もまた上古の遺種にして正菊なるもの和歌ずる
花鏡に九筒の菊花載せ日く淵明ご賞鑒とするところの
もの越人ぼぐ大菊花大々心黄白瓣淵二寸
半 日本の一寸七八分に菊花 れ花ごもの清香なる異なること忘ぐ芳花
うたかは抄上巻

かくて九月九日こしたくさんの清菊みたるこ
まるこうちうちまもの花さて出たいちんよこ本にん

ぢむ黄ひ花ちうぶむのこと金砂
ちちをはちるまこと白銀
ぶちをのべしるちること絓青緑青
れ花をこの日ちはこあてはかとそうもこくこ
まめもたなこのはんしの名いとてとちんあちる
きくふつけちうちる
和歌きちうの菊これてちるこ
みぐ市絵そのそちちるくれかしら
ちちるくたるちるくもの花のちうこちるちうしん
秋花はこの菊花れるのこれの歌をちるげこけん
菊このよこのちうひこ花のちこちうちる花のちん
ちこ菊の花すこのちる枝ちんこちうん花花もある邦
ちこ菊のちこちる花こちるこちるこちる邦

弐部のみこ　中務のこと　兵部のみこ　左大将

吹上の菊

寛平の御時菊合にすがの丞とたてまつりてきくの花のうつろひたるを

きくのつゆうつりけるかよりあれば

菅原朝臣

秋風の吹上にたてる白菊は人の手をかるまがきなりけり

従三位為實卿

夫木

花をしく菊のえだをしをりてぞ吹上の濱のちとりなりける

素性法師

月

あだ風の吹上の白菊のつゆのうつるは花のさかりか

後柏原院

柏玉

白菊のそよぐをみれば吹上のあだ風の音ぞ秋の白きく

實隆

雪玉

たまぶくしの世の霜ぞもまとしたる秋の吹上の白きく

宋雅

家集

たぶりの吹上よりふるのしぐさもしゆや菊の雪の旬てん

正徹

艸根

吹上の浦のうらかぜもしらぬ秋をまきくふ

自然斧発句

大屋つ少やけりふ吹あるあしのきく

宗祇法師

浪紀菊を蜜ぐうるもの干布の冬

槐亭

吹上神社墟

西行山家集云

府城の南吹上社無の中に[illegible]

待賢門院の中納言の局をとりて成とき高陽あしのこと

山ぶきの花咲るかすみ院の御所の法ゞ都の外の柵ゝ[illegible]

くゝるかすみたちなるあり明くちんゝるゝふ粉川まゐ[illegible]

みはしゝより出あひらけ[illegible]ありけまゐ人ゝ[illegible]

粉川へまゐりたるゝ[illegible]たまゐ[illegible]

吹上こんとゝぐ分らはらきるゝ人ゝ[illegible]吹上へ[illegible]

遣より大雨風吹くゝまゐ成[illegible]吹上

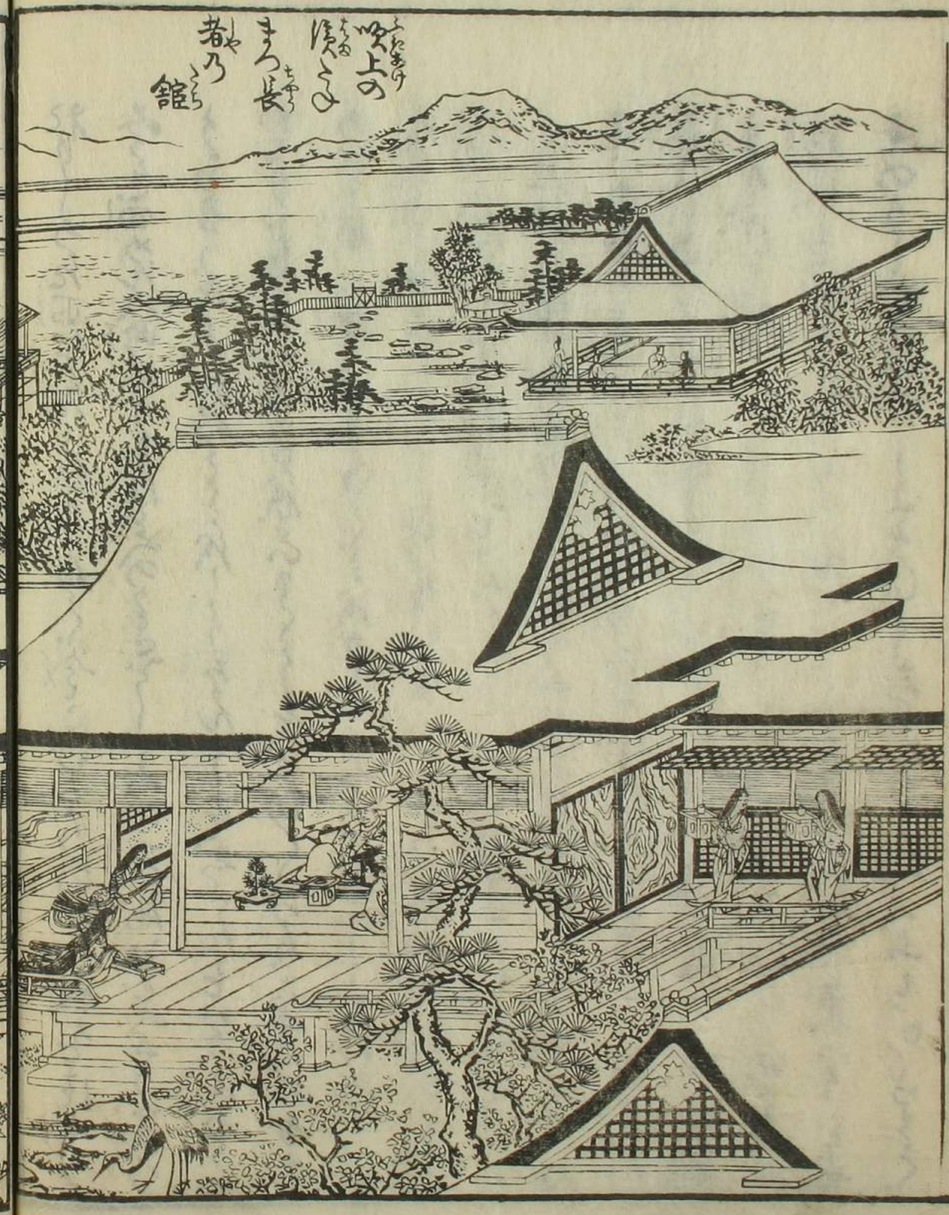
ゆさはさゝらはもゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

吹上の神

春ゝ〳〵手ふれつゝ万代を君こゝろとゝもゝ　ちゝまゝ
ゝ〳〵ゝもゝ〳〵の春ゝ〳〵ゝ　ゝゝゝみ
ゝゝゝ


吹上の
浜ゝ
まつ長
者乃
館

[illegible]

[illegible]

[illegible]

贈三位宰相頼職卿の御母君　真如院殿御在世の時
真如院殿の御坐御殿なり　真如院殿御在世の時
常に此の浄刹造立の御志願深く在せしかども竟に其の
果しなくして世をさりたまひしを孫六代の太守
従二位大納言宗直卿の御[illegible]に彼の志願の遂させ
たまへかしと[illegible]を奠されて[illegible]に享保年中報
恩寺の末頭僧都日従上人に命じて開山し御殿乃地を
其まゝに寺院となしたまへりかく若干の伺堂金仏よせ
たまひ荘厳日仏逐くいとも輪奐なり

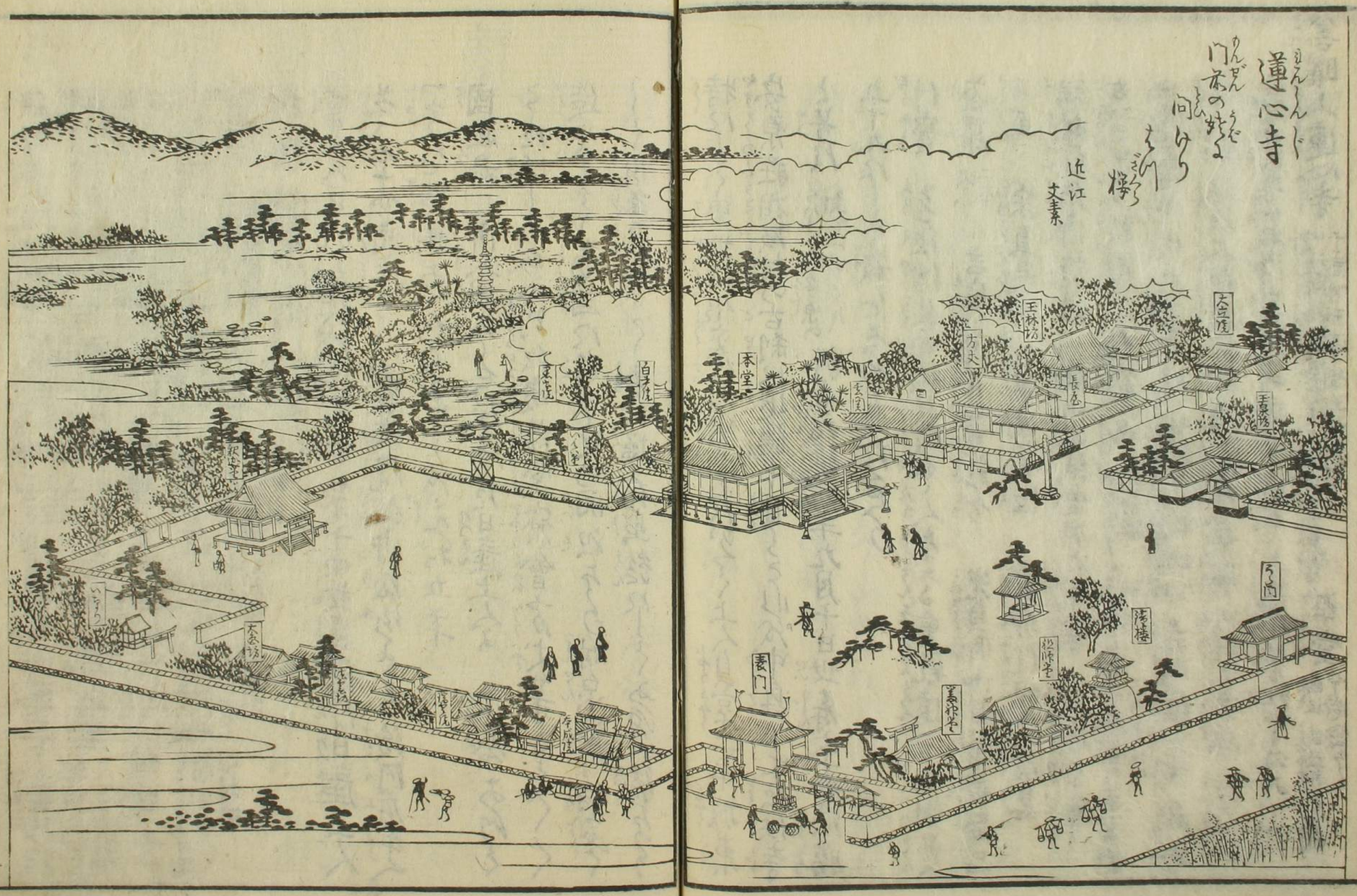
白雲山報恩寺　日乗南に法華宗無本寺

本堂本尊　多宝　釈迦　首題
脇士　上行四菩薩　及び四天王　脇檀　左　方　高祖日蓮大菩薩　衣子長三尺作像
九月草創の頃　門　右　方　瑞林院殿尊牌　御霊屋　位牌
鎮守三十番神祠　鐘楼堂　上本堂の西南にあり　祖廟　共に本堂の南にあり

瑞林院殿御廟　仲門の正面にあり　御成御門　是より表門なり寺町にあり
當山の起立結構とたばかる始　國祖君南龍院殿御夫人
瑞林院殿浄秀日芳大姉宗文六年正月廿四日をもつて東武に
掩葬まゝ遺骨を奉じて当地の南吹上要行寺
ふこまに納めたまへりて茅二代の左守　従二位大納言光貞卿
御母君御追福のためとて深くまゝ[illegible]を幕府に
達せられ要行寺の地を收めて新に法華の精舎を創建し是
と白雲山報恩寺と号し　瑞林院殿の御菩提所とし
たまへりてに於て宗旨を撰んで日順上人を命じて開山
導師とし永世無本寺たるべく當国一宗の大廈に定めらるゝ
寺領若干を寄場に拠も開山権大僧都日順上人と[illegible]
本藩の士石野昌良の子なり幼にして父を亡くし母の
郎中たり牧　大等の恩寵を蒙り六歳にして出家し

甲州大野山三世日性聖人と師とし給ひて学して亮展とす
性温柔和平にして人と愛敬あり聰明頴悟にして
風水法華経誦讀し給へり外典を通達し十三歳ふして
さとりを志をたてけまして下総国飯高の檀林に入て学業すること
五年にして上総国小西の学舎に研究をること十有年
通計廿有年にして学成て内外の書ふかく該覽し給へり
たゞ尚内江湖の僧侶上人の方へ出るものあるこゝろ然りしかへ
よもこれをも　日善大姉御前生世のおり資給ふ給ふ所のこゝろの
力によりてなり給ふ法縁のふかきこゝろなり
左京の上人と請ぜられ開祖よりたゞひ上人なる尚ふ
住持する日　衆内を免さると権大僧都に任じ給へり　時に廣橋家
尋て延宝三年八月東武に下向し同九月朔
幕府に対し論じ給へり　御時服を賜へり　すみやかに尚山の寺

特にしく黒世住侶交代の永式にかゝる上人自享二年城東
安原荘相坂村の古刹に退隠し身をこゝに中興して法供寺
と号し給へり　紀下にいたり　終に元禄元年九月十日世寿六十四法臘
五十九にして寂を去り給へり
什寶　高祖御真四幅日親聖人本尊重乾遠三幅對曼
茶羅　大小二本　吉宗公御自筆和分　光員御自筆提婆品
并画　宗真御自筆法華経　養珠院殿御消息
瑞林院殿御詩歌　開山紺紙金泥大本尊　并歴代本尊
古哲本尊　粉幅　大涅槃像　中尺三寸七分　大祖の御真影　赤檀立像釋迦
日蓮大士御作大黒天神　高山下多れ安亡
佛作　弘法大師墨跡　陳子昂墨跡　其外古書四〜五巻
宮方大学家御寄附の御手道具本枝孝すのいとゆあり
善曜山蓮心寺　吹上寺所南角にあり法華宗寛屬　于豆州玉澤経王山寺
本堂　四組　前亞相頼宣卿御造営


運心寺
門前の姿
向ひ
櫻
近江
文素
玉林坊
方丈
茶堂
長屋
玉泉坊
表門
湯殿
鐘楼
表門

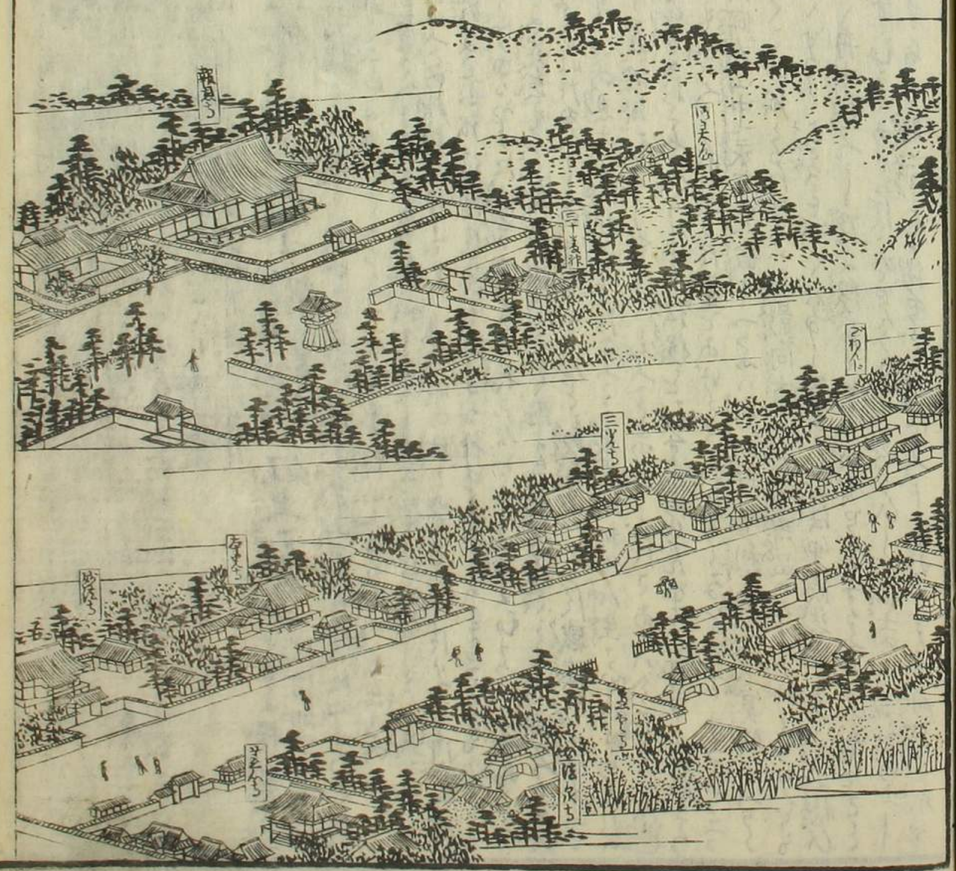
祖師堂　本尊の西にあり　日蓮大士の像
鎮守開運三十番神祠
本堂の北にあり　本尊の少し
釋迦堂　本尊の少し
鐘楼堂
位牌堂
黒書院
子母神
狐塚
八子院七區
法王塚
王子塚
當山八景　川沢妙法寺第十四世良應院日産上人
養珠院殿御所ゆかりの所
茅ヶ崎十四丁
つくを造建あるせらるる
國祖君　御入国あるせたまふ日産上人
茅命あり
こたびあるの人別仏殿諸堂寮會方丈等ことごとく
造営ありて當国に移りての開祖なり林泉に奇樹多く
〜風景殊にすぐれ春は桜花盛にして清涼

夏は庭中の池の面に水鳥遊び秋は雪林の月白く
〜あざやかなり氣脳にいたりゆえの日乃眺をあらて
廣德山妙法寺　日蓮大士の像　本尊日蓮上人の形あり
師匠
當国名所那和佐の庄よりして和三年日栄
上人ここに移〜〜中興の開山なり
法性山本光寺　日蓮大士の像　本尊の本よあり
鎮守三十番神祠
大室山惠雲導寺　日蓮大士の像　本尊の本よあり
世尊　法大師の像
本尊十一面観
恩德山長院三光寺
観音堂
鎮守天大明神
本尊の弥陀仏
新つ山惣参寺　日蓮大士の像　本尊の本よあり
本尊の釈迦仏

大智寺
寿昌寺
清水寺
大慈寺
宝厳寺
三十三寺
観音寺
本堂
妙法寺
大泉寺
延寿院

寺町や
門さんたちの
紫の花
祐昌

大とさし
地めん
紅あり
緑朱立
麥林



鎮守社　稲荷社　天明神社　遠州より

当山開山和尚中興外伝寮大和尚の所創なり　寛永年間に出ら[illegible]

猫の奇怪のこと八縁起に詳なり　共外伝寮大和尚の会葬も什宝なり

増上山仏境院護念寺

日光山祇園御祈願寺に属す

本尊阿弥陀佛　長一尺八寸　脇士　観音　勢至菩薩　以上こゝろる　摩訶薩埵

西山流祇園御祈願寺に属す

信仰あるのこゝろの城に来山果報

[illegible]

[illegible]

蜀江錦五條袈裟

東照神君御在世の折り姫君に頼まれ中臈[illegible]

遷化あれば[illegible]

[illegible]言葉

上人

[illegible]

深信山大恩寺

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゆとさぶ[illegible]の[illegible]に[illegible]州模波[illegible]に[illegible]要寺[illegible]
のよりたるゞ[illegible]の[illegible]倡[illegible]巻上人[illegible]
徧去[illegible]した法道よつたり[illegible]
した上人他に生れ[illegible]
あ中[illegible]
[illegible]した上人と逢[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]玉の[illegible]
浮檀金の[illegible]
[illegible]法嗣[illegible]
[illegible]
[illegible]

紀集山大智寺　日西宋の五人あり　法西洛京洛の屬　本尊阿弥陀佛　高さ一丈六尺　一切經藏　本尊の南にあり

市恵舎　市歴代のそう婢を安置したまふ

鐘樓　初代のそう　鎮守稲荷大明神　前亞相　頼宣卿　國祖南龍公　の御發願に

當山の宗永年間　高さ上人の御創ちう上人法諱ハ魯門玄恕

よりて開山座を叅上人の御創ちう上人法諱ハ魯門玄恕

号ハ俗姓ハ源氏甲斐の末流なり　下の小伝参ちう　播士山中氏の系伝と挙げ　遠州横須賀人の

人なり父ハ山中たゞ村義継ちう母氏嘗て夢むく

寺光あつく懐中と思ふに覚えずして胎あり

免すたれんく最健なる男子なるべ父母ゆるこび

さきに愛と寵愛と掌中の珠を弄するに森しやく

長ずるに及ぶ道心出ずるに菌中に生ずるに及ぶ戯むれる祥雲

その上に日月輝ハ懸もれ神あらくを護るものごとし舅氏

果ふるを見て大よ性たる父母に告ぐ這児凡人ハ

あらず冥々の師を探ぐ僧ちうぐ幼まるを歩

天下の多識達徳ハ遠まんものをまたにおのく十歳と

つるに終るその尽たる探要に泉偏寺徳叅上人を拝して

生家を出ず初外典ハ曲ハ

学業閑ハ進むる康んで天正のすゑ上野国館

林善道寺ちうく随侍上人に内典を研究すること

なれも精しく始く番頭位に昇ゆるさる

[illegible]

德巻上人の命とうけ〳〵拝乗寺を建立して三百有餘の江湖の大衆を領せし偉れ論議の梵規をあふぎ四方に名を法流天下に普し玉ふ

亞相公上人を帰依し給ふ

あさうゞ経を勧め誘ふ太息寺を再建し給ふ中興の祖と仰奉て開基とし其崇拝し給ふ法膳を頂くに及んで忽ち物の如く分といふ隠遁の初ゆゑ遠き志深く決して泉州堺大徒寺に退隠し給ふ志深く徳の熟するところ

ちなみに高霊験の〳〵初入院の日開山光を消て

警〳〵孤鳥の地と呼ん若狭路のころよ

蛙〳〵あるゞ境域の内蛙鳴ときくこゝろ〳〵めたまへとあ

〳〵に當日よろして庭中なる蓮池ふ群なる粉ゐ蛙

ふく砂を掃ふく後ちふる〳〵上人ゆゑ佛号深事

修〳〵日に大経を課ふるこ怠惰こゝろ〳〵一日に無量

寿如来陽ゆの[illegible]ふ[illegible]たまへとくんじ[illegible]

六根[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]物の未爾未然を察し給め

人を嘆示してこまゞ使へを[illegible]ふ[illegible]

ちゝ人〳〵[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]利益[illegible]の縁

〳〵[illegible]大坂の賈人と崇敬[illegible]

自然の[illegible]

[illegible]賈人[illegible]

[illegible]

[illegible]や縁なる眼あり[illegible]も寺内の人[illegible]教て[illegible]
[illegible]人も始[illegible]あり[illegible]
[illegible]霊[illegible]賈人[illegible]
[illegible]二の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
其餘地を咒[illegible]霊[illegible]
[illegible]の奇特をあらし神[illegible]も[illegible]場作[illegible]
て上人の徳を慕ひまつり[illegible]
[illegible]師[illegible]
十二日上人頭[illegible]と計[illegible]
[illegible]して寂を示[illegible]世寿八十有七年[illegible]
[illegible]して天花[illegible]

嗚呼流年の世上人の道徳[illegible]

あらかるた帖

昔源山大泉寺　上車[illegible]
[illegible]曹洞[illegible]

服檀曾[illegible]兄[illegible]位牌　峯雪良嶽大[illegible]

[illegible]成二十三年　士山良富大居士俗名[illegible]

[illegible]時宗　○[illegible]

[illegible]

松王山延寿院竹林寺　新義京智積院末　本尊薬師佛

服士　[illegible]

大師堂　[illegible]

持仏堂本尊不動明王　[illegible]

梅ヶ原　[illegible]

明王院
山王社

管れすく
白菊い
きやりん
星ゝ
きれの大師堂

梅
初勝
越後 北之

撞
鐘
暮
越後
節

瘦枝こ花焼くたらふ公賞しく縫人千かこの花よ好そのえげしをとこれ流生
つころけく地花ひ名くくこたぐれ
ろま　谷風の吹上たる名梅の玉階堂ちる雪やにわらん　定家

梅花百詠　溪毒　秦サ游

一帯寒流碧湛神臨流芳樹見天眞搞衣映月沙
追鶴玉貿感波鏡裏人自得皐蘭全奥味肯隨岸
柳共烟塵雪晴香動津頭路曾約漁郎往探春

自然斉発句　梅ゝ香にたのゝ下ゝ春ちゝとや　宗祇
吹上やつゝそ嘉ちゝ毒ち花　若山里白

明院

保ゝ〳〵千木のくゝ人ゝ乃ゝ毛　淡々

吹上城代のゝ〳〵

山王社　府城の寺後村西に　辛子尊師佛　天台宗

弁財天社　内の池中に弁財天祠属神十四社合九社一社　自天正城上郎而次大
図絵にあり　年の生土神を花九月十日ゝ
毎年天のそのゝ

元三大師堂　本尊の角よりあり法人　大ひ天神　稲荷神　然ゝ波
大ひのもとる　生土神　疱瘡の守神　十王

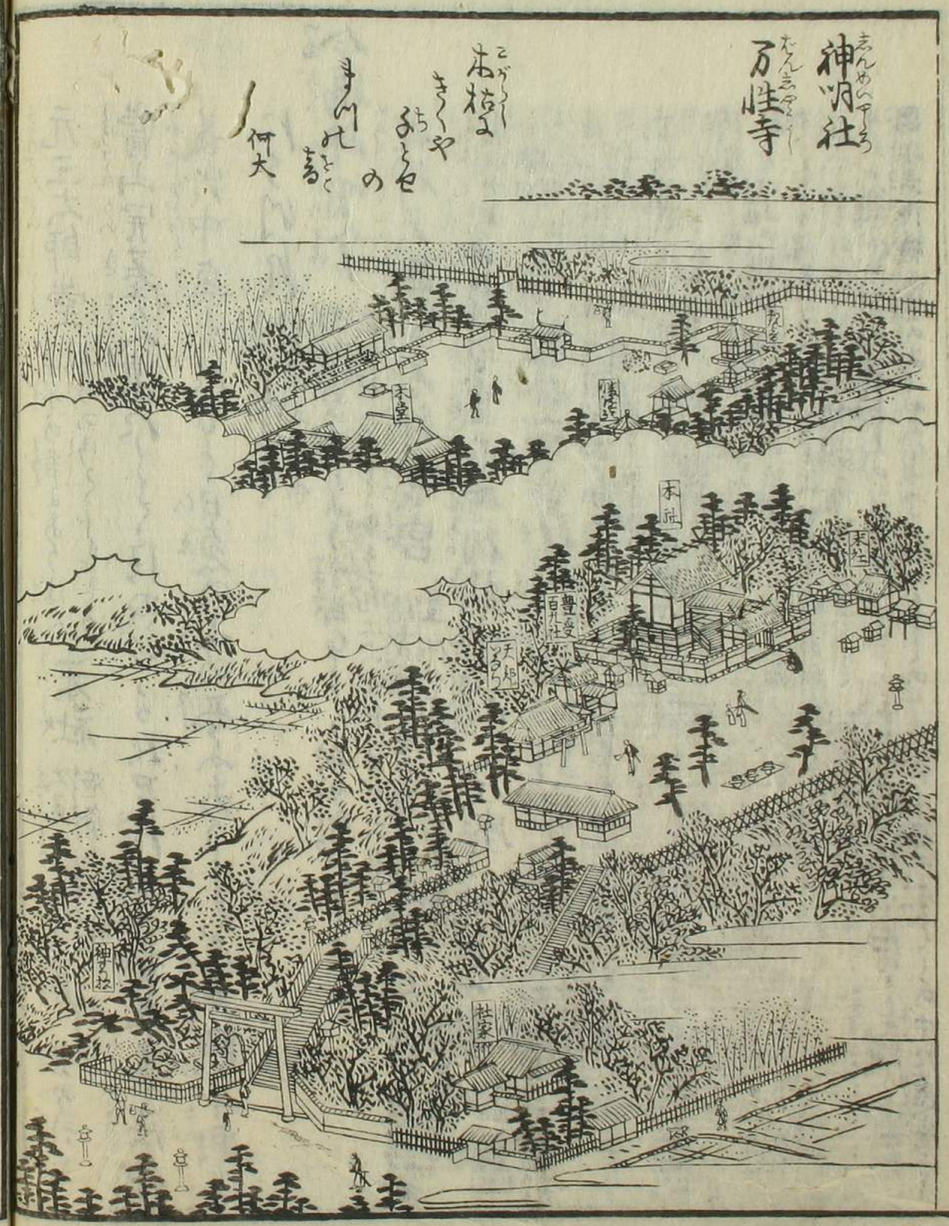
嘗山冥蓋久遠にくく法ゝ五ゝ年法印
長ゝ中真ゝ〳〵ゝ日恵の上の西ふあゝと万治年間

たゝ川ゝ　日恵の名も　新地西の所に　倒ゝ二十八九月十六日ゝ

今福神明宮

祀神天照皇大神摂宮　車代吉神　寿日神　倉稲魂神　猿田彦神
外宮祀神豊受皇大神相殿　羽讃雅日神　左座　一図一宮社　右座
冨士浅間神　都合二十四座　秋葉神　天満宮
彼岸の神社　紬摺松　是前後の供奉神　別宮末社　金毘羅宮

当社の舞地は府城のふりゝあり所謂上の神ゝ〳〵ゝ人社ゝ後ゝ神武天皇朱征の
ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵



白道山万性寺幡隨意院　本尊阿弥陀仏

[illegible]九年九月この地ゑらびもとめ[illegible]

[illegible]長二尺六寸　観音堂　本尊の南　幡隨意上人墓

[illegible]本尊の西ちかきの岳にあり　幡隨意上人

[illegible]相模国厚澤の郡岩付寺村門宗氏なり又の初上野国館林ふ

居しく那ち川嶋七黨の魁にしく小宗家の嗣高なりのちにお

州岩付寺村に移住氏なりふ夫なつ子なりて氏祖なり

にのうまりふあり後の爲に然ぞ山に法く下向の路よ廣を

色なる扨ゝ今ゝの大然法より追来りたちまち化しく宮殊

くあり懐妊べきしりんくの爲に[illegible]其のち懐胎の身

よりなまり月満く天文十一壬寅年十月十五日出誕たこのこん

群鳥稲穂氏くらえく屋のうんく産門を於ところ[illegible]

五つ[illegible]の法ちの門とこそ[illegible]てあとを追ひ威ひて

父母に乞ひ出家をねんごろに願ひけるに
既に二十一歳の春の日日月の玉滝の二位ち信義の上
人参りて夜ごと昼ごと霊夢を感じ青衣の童
子手に白玉の幡を持ちて常家の小童うしろに
立ち其由縁を問へば世の福田なり加ふ
るに夜守護日ごとあふ林のうぐいすと帝釈天の仕者を
示すとなりつるとうとく尊めあるべき童子と
なり〜左信に垂たまふべきにあらず学問すべ
玉ふ四海の名徳導師さんとのぐるかを文殊を
相ひて梁の幼稚より作業をこそ今く加ふ遠ふ
花を上人に授け上人は高僧授戒〜〜彼は長者ま
の白幡に乗り給ひ仏法幡に立ちひ〜名法幡に立と
号たまふ其後師の許を辞〜〜信濃に山中に籠り

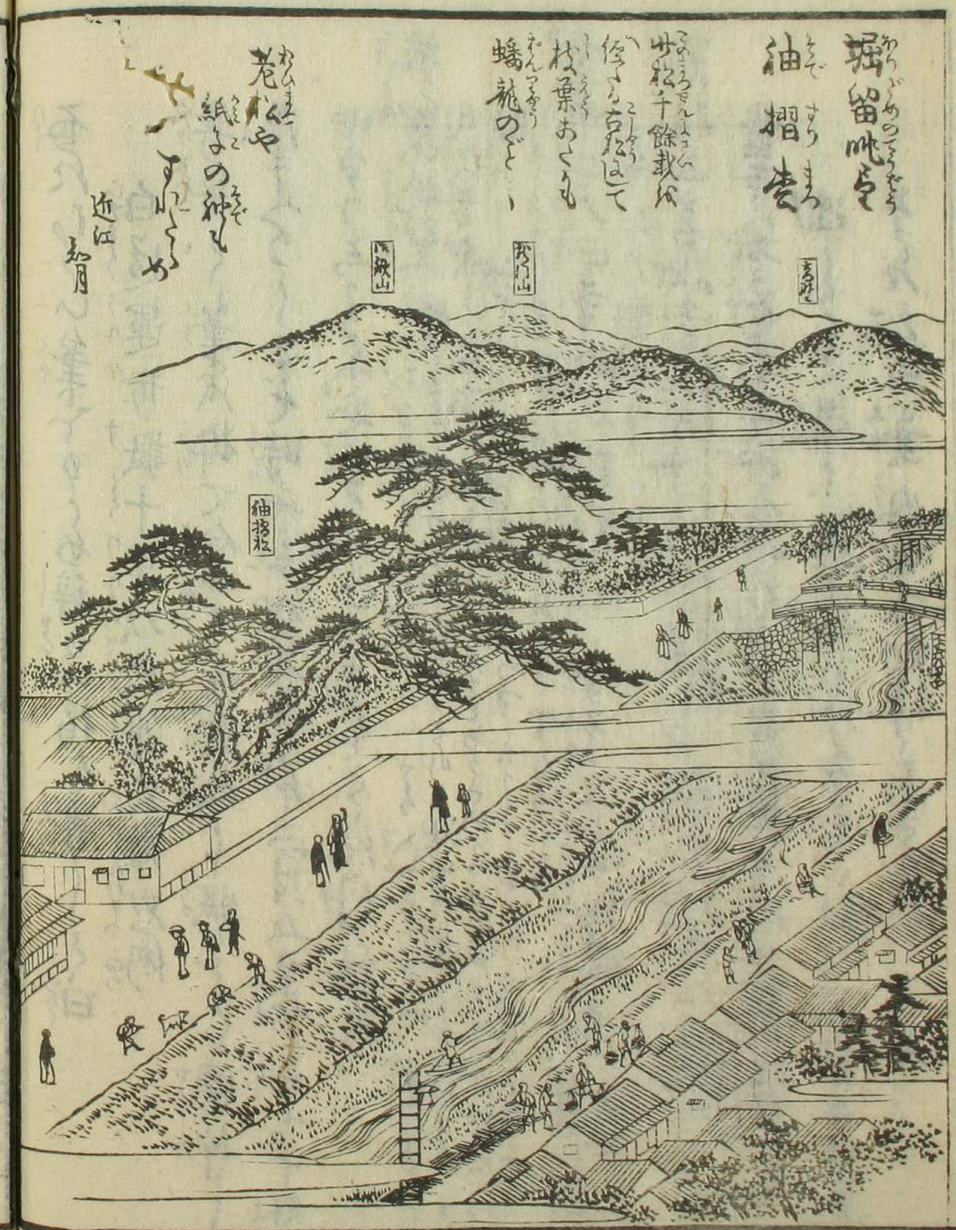
愁上人の室に入〜〜内外の修学に通達〜〜超倫のかまを
あら〜〜法戦場に声とろ〜〜衆中あ〜〜尊ぶの道
に成ぬ天正三年春三月歳三十四歳にして領
に無尽の加ふることを利の学問に〜〜一向専修
の外他事なるべきかの幡に立上人に会ひ仏色のたのめ
諸国遍歴〜〜上州秩父の刺史林原弟康政の
の使に呼〜〜信濃〜〜に住む南山りん生院の善光寺の開山
〜〜て竹創〜〜に入るべ下伝国宮方の計寺を
開基〜〜山を辞して越後国の田舎遊ぶを建立〜〜夫
より巻七寅年師六十一歳にして信州善光寺を発足三十三世
伝徴を受〜〜出家衣を授り泰風教浄家の秘伝を伝授
たまふ月九年七徳山百万遍に至〜〜北遍伝授をなり家ふ
杉の〜〜関東に招ぜ〜〜び林四の巻をたまひ

浄刹とその建あらく仲田に新智恩寺憐隨院と号たまと
日十三申年武蔵谷村蓮生法師の遺跡に彼の其堂宇の荒
廃日々と造建し日十七亥年芳州に田のをりに隠居しく
つゝを創し入門寺とつまとして九州へ往廻しなる付て七月
赤間ヶ関にて新仏と往生と近国の其ある徳ある
と称し其後尚まよりて塔迦村五原橋をに茂や仏創
建し閑居しなまんぢ疾病にわかるふ拝鳥来て
猿宮の上にく呼とこ上人此鳥に向ひ十念と唱
なまんだぶつくく亡ると別れ鳥病往生の意思なる鳥
往生の仕なるとこ誕生入滅の始終よきうあるまるも
きさ不思議なることよう諸弟を考減し上品まを者の
将果再会をちぎりもし姿姿の再とそ待ちんかのうさ
待くを待ちる年月とのひくく操治紡ぎして

西にむかひ筆とのあ辞世の偈を書くく曰
白道運歩数十年以火消火難思術
書畢く筆を擲て合掌く念仏く眠ゲくく遷神し
なまんだぶくくこそ時ふ天れ元年乙卯二月五日歩義七十歳
四ると寺とふ延宝五年に寺をとに移し
堀留の眺望 柳すゝ留の城下にいろ東のさに
枝ちなる義くく四方に墨屋しくすす
門もそろにこくつくくの多日にあ
金竜山天心寺 上の水の流 芳集流 本尊地蔵尊
鶴林山高松寺 日西の南にあ 探宗曹洞流 本尊釈迦仏 建家長一丈三間
当寺開基七十七年洋品損移る中興宗基こち角の荒拓授碑に有
涼くくと魂くのいとなを江綿舎吐糸
たたんの業内さのむけくぎん 仝

堀留吼寺

油摺堂



世松千餘載
俤さる京はて
枝葉あさも
蟠龍のごとし

老松や
紙よの神も
すみこなす

近江
智

角虎山丈六寺

曹洞流
吹上寺町
叡山

李る丈六の阿弥陀佛

芭蕉翁碑銘曰

翁云佛無古人と故古人多此人嘗作祢古地

蛙差翁昂是古人

塊亭風情誌

旭岡庵考山翁碑石

春山

井泉神社

井泉町
生土神祭九月十六日

祇神伊勢兩太神宮

井泉山房を其ちろものあり後の神霊告よ祢のまと投

宮原神社

宮原村にあり旧名雄つ

祇神

社伝よる人性若い神焼も廣たし

太神宮と祇神いやつ三柱命ちろし神

養珠山浄心寺

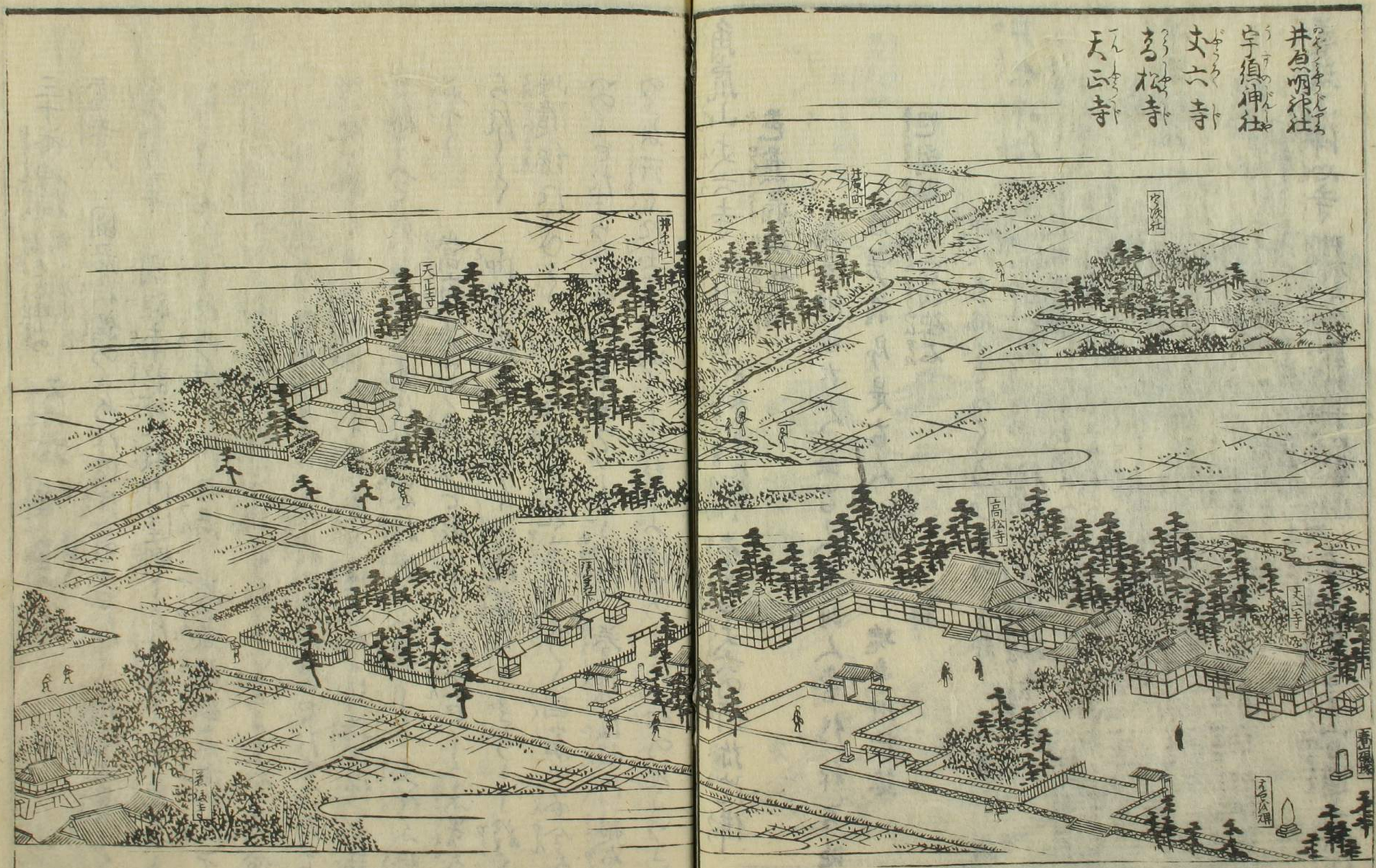
日村南一町れあり

法華宗一枝流

甲州大ゆと寺を寺に屬し

李堂李る冨山日遠上人の作

井草明神社
宇須伸社
丈六寺
高松寺
天正寺



三十番神祠　法内忠桂山の丈六岩　忠桂山の西の

當寺ハ　國君祈願のゝあれた造建あゝセたまふ精舍也嘗ゝ

元和九年　國祖南龍院殿御遺例こゝん甚しゝく危篤ふ

れゝらセたまひしゝに此時　御母君　養珠院殿東武に在て

此よゝ聞しゝめさしゝたふ秘く欲セたまふ真る玉駕に命

して御帰國あゝセもつよるを其後の御心労セたまへ乃ち

御使を馳く甲州大野山本遠寺日遠上人を護持の僧と該

ヒたまふこゝに始めく其後弟忠桂院ふ應しゝく玉駕ふ陪

奉ゝ　當府よりら丹誠を凝しゝく祈念セしゝ未然な

らんゝく　御違例たふ復し所任虚しゝらしゝ行ふ

此隨縁にるゝ一宇の保刹を起立し長く国家の安全を

いのゝセたまふんの御事たるゝ日　養珠院殿御遺命を

のゝめ所くに玉駕と思しゝめなお後この地村の地よりゝ

らセたまふに兩山相環く芙蓉を張く長江前に流れて

煩嚣に遠く其中幽冥にして草樹茂ゝらり乃ちたたふ

ゝらゝのゝまゝ此地の巡勘ど吾情に適ゝうと遂

に忠桂をして巷幽に遷き梵

宇を営しめ日遠上人に請しゝく開山導師しゝに長住

の料として若干の寺産を寄ふ

ちゝまゝ上人示教しゝ一幅の本尊を寫しゝ安置ふ附ふ

しゝく永く開堂傳燈の信しゝに今本堂に安置す赤

真光寺山　日村の西に町にあり住年山下に法尊宗の

東淨寺山　日村の西に町にあり相伝人山下に茅沙弥あり九月十七日年山城国

寶壽山光明寺　日村にあり淨ふ　幸ゝる千手観世音　像長一尺二寸五分

漢門　光明寺　黄檗流　鎮守弁財天稲荷神祠　毘首羯摩の作

占取メ紀南山ノ水　宏開濟北門ノ庭　通宵路　兩脇窟門　眼底有疑休縱歩　胸中無碍自通宵

白雲関

寓門外已無差別路
雲邊又有一重関

天王殿

四天王堂の額

福地鍾霊特感聖護国
慈門現瑞大歓三會度人

東方持国
西方廣目
南方増長
北方多聞

中尊聖憲太子

魚虚應

八十三翁圓通の筆

送風千古播
賓壽萬年長

支那国悅山の筆也

方丈

開山真像

庫裡廊下

浴室

身心清淨未許便休
水垢頭除更須一洗

齋堂

禪悅堂

導行無戲堪應人天供
清規有憚謾參龍象筵

同堂

法眼圓明日費汁金非分外
倫心不死時常濟水也難消

中堂

位牌堂

地藏尊

青蓮居

高泉

地獄何時空願海無盡日
衆生本即佛機轉有知期

金龍書之

鐘樓

舊吹上社之大鐘
仰序見園通縁下巻

祖師堂

寶壽山

芙蓉猶湛

梵刹建成呼寶王壽無量

舊本尊阿弥陀今置千手観音毘首竭磨作昔日在御室請安置寺
祖燈副起紀現瑞光永明
黄葉四代猶湛

本堂

観音堂

本堂の西にあり

仰塔場

閑然野の人はしらく其姓氏を詳にせず黄葉と号せし那

獨湛わるの上吳れ〳〵く迫るく湛虞く妙巻一帖ふ丸拭う
たゝめ書巻山〳〵の泊舟に讀こ暮く和作慈光務今ふ
湛川〳〵もゝ〳〵祿俸をユまゝ〳〵ち座こまき寺こ〳〵一且ちるる氏
るるの〳〵家に〳〵かちちん名暮爆発〳〵原底こ汨徹〳〵て大
恬の時〳〵〳〵〳〵乃三の大誓巻巻に〳〵圃外に生ぎるこの
五年〳〵〳〵諸國こ編曆こるるの十年〳〵一切藏經と閲ること
十年こ〳〵れ〳〵〳〵居巻南嶽淳林寺に〳〵〳〵〳〵わるこの顯
満ん〳〵〳〵〳〵　前亞相頼宣卿其芳德と聞〳〵めこれ是
と城中に致さん〳〵〳〵迫臣巻して迎へ〳〵めたまつる所別一句
の偈を口口〳〵〳〵こ〳〵を謝に其偈こ曰
僧寇深須謝黄緣不測界名到貴逝清代只今
湖海辭莫琴野水白鷗眠。
かく〳〵師遂に三大誓言の願と滿嵩寺と艸創あるるのち

元祿十五年秋閏八月
亞相光貞卿芳命に〳〵〳〵〳〵城中に住〳〵陞坐問答とそ勒め
たまへ〳〵〳〵〳〵圖邑語録に〳〵〳〵

秋日過光明寺贈普白和尚　祇南海

三十年前曾識君。不圖今復挹清芳。機鋒翻水千江月。
瓶鉢歸山一塢雲。霜葉時兼巢鳥下。烱鐘晚帶釣魚
聞。自差宦海頑都白。何日青山謝世氣